

「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」

## 平成 29 年度実施報告書

埼玉県立越谷北高等学校

### 1 学校の現状と課題

#### 1) 進学指導に関する現状

##### ア 学習指導の主な取り組み

- ① 年間 5 回の定期考査（1 学期 2 回、2 学期 2 回、3 学期 1 回）
- ② 土曜公開授業（隔週土曜日）
- ③ 進学講習（1 年夏期、2 年夏期・冬期・春期、3 年平常・夏期・冬期・大学別）
- ④ 模擬試験（1 年 3 回、2 年 4 回、3 年 7 回）…事前・事後指導、模試検討会

##### イ 学習方法の指導と主な取り組み

- ① 学ぶことの意義…進路オリエンテーション
- ② スタディ・サポート（3～4 月）…全学年対象
- ③ 学習状況調査…（7 月・12 月）…全学年対象
- ④ 『学習の手引き』…英・数・国の予習・復習の仕方、授業の受け方
- ⑤ 「シラバス」…学期ごとの授業内容・進度・評価の仕方
- ⑥ スタディ・ケア（1・2 年対象）…不得意科目克服指導
- ⑦ 『北高Diary』…スケジュール管理能力の育成

##### ウ キャリア教育（LHR、総合的な学習の時間で実施）の主な取り組み

- ① 将来像をつかむ…オリエンテーション合宿
- ② 文理適性検査…自己理解、普通科 2 年生からの文理選択
- ③ 職業研究（1 年 7～9 月）…身近な職業人インタビュー
- ④ 学部学科研究（1 年 9 月～2 年 6 月）…大学オープンキャンパスへの参加
- ⑤ 小論文研究（1 年 10 月～2 年 12 月）…自己・社会情勢の理解
- ⑥ 進路講演会（全学年、学期に 1 回程度実施）…進路探索、受験を取り巻く環境
- ⑦ 高大連携 大学模擬授業…2 年 11 月に国公立大を中心に 13 講座  
大学訪問（希望者対象）…東大、東北大、一橋大、東工大など
- ⑧ 進路面談（1・2 年個別年間 2 回、保護者年間 1 回）  
（3 年個別年間 3～4 回、保護者年間 2～3 回）
- ⑨ 卒業生との懇談会（2 年 3 月）

##### エ 資料の提供・環境

- ① 『進路の手引き』『進路だより』
- ② 質問コーナー（会議室前廊下）、教室（進路文庫、PC 受験校等検索システム）  
進路閲覧室（大学案内・シラバス、受験情報誌、赤本、模試の過去問、PC 4 台、  
コピー機）

#### 2) 進路指導に関する課題

平成 26 年度以降、国公立大学の進学者は 20%以上を維持し、平成 27・28・29 年度と 3 年連続で、国立大医学部医学科への現役の合格者が出ている。しかし、

入学時の国公立大学希望者がおよそ8割であることから、まだその実現率は低いと言える。

平成29年度3学年の6月時点での第一志望は、難関国立大学22名、国公立大学計219名、難関私立大学89名、GMARCH48であった。入学時と比較すると国公立大学を科目負担からあきらめている生徒も多く見られるが、生徒・保護者のニーズを踏まえ、これらの第一志望実現を図ることが大きな課題である

また、2020年新テストについての情報を積極的に取得し、組織的な対策の取り組みを行い、情報を提供・共有することも必要である。新1年生に対しては、「国公立大学を目指す」ことを指導の1つの柱として掲げていきたい。

## 2 本校における28年度までの取組及びその成果と課題についての概要

これまでの“リーダー育成事業”への参加によって、学校全体にリーダー育成の機運が根付いている。進路指導、学習指導はもとより、学校行事、部活動においてもリーダーとしての経験や、資質を向上させる視点で教育が行われるようになった。

その中で進路指導では、高い志を持ち続ける生徒を育成することを重視した取り組みが行われ、第一志望をあきらめさせないことをスローガンに掲げた指導が定着しつつある。平成27年度3学年では、生徒の進路希望実現のための指導に取り組む中で、6月時点での第一志望（国私立を問わず）入学の実現率を40%と目標を立てた。その結果は、26%であったが、昨年度に続き今年度も同様の目標設定を踏襲することにつながった。

## 3 本年度（29年度）の実践

### 1) リーダー育成、学力向上に向け、外部人材を活用した講義・講演等の実践について

#### ア 講義・講演等のねらい

講師として、障害がありながらも教師を続けようとする人たちを支援し続けている方、放射線衛生学の専門家として調査研究を続けている方を招き、生徒に生き方を考えさせる題材を用意することで、一人一人が今後どのように行動するのか、国や地域または専門分野でどのようにリーダーシップを発揮していくのか等を考える契機として講演を実施した。

#### イ 講義・講演等の概要

##### ① 3年生対象講演会

日時 平成29年10月5日（木）7時間目

講師 宮城 道雄 氏

演題 とともに生きる社会とは

##### ② 2年生対象講演会

日時 平成30年2月8日（木）6、7時間目

講師 木村 真三 氏

（獨協医科大学 国際疫学研究室 准教授）

#### ウ 生徒の様子（アンケート結果等）

①視力を失っても前向きに行動し、もう一度教員を目指した講演者の意思の強さに感

銘を受けていたようである。感想には、障がいを持った方々に対する配慮の必要性や諦めないことの大切さを感じたことが書いてあった。

真面目で純粋な生徒が多く、障がいについて知ったことにより、自分たちがどのような行動をすべきか、何を考えるべきかを感じたようである。また、困難に直面しても諦めず、目標に向かって努力することの大切さを再認識させていただいた。

- ②一人一人の生徒が社会的な事柄に関心を持ち、考え続け、一定の専門性を持って行動することの意味に触れ、それぞれの行動変容につながる可能性のある機会を設定することができた。

#### 生徒感想

- ・ 知ることが大切、しかし知るだけではだめでさらに考えることが大切ということだと考えました。原発事故に限らず様々な問題を知り、どうすれば人々や世の中がよりよい方向へ向かっていけるか考える必要性を感じました。
- ・ 福島での原発事故からかなりの年月がたち、私自身も最近では思い出すことがなくなっていました。放射線についてはテレビなどでもあまり取り上げられなくなっていて、でも問題は解決していないということを今回の講演で改めて思い知らされました。私たちが知ること、そして考えることが大切だという言葉聞いて、私は今まで知ろうとしていなかったんだと痛感しました。今回聞いたことを自分の中でしっかり考え、これからどうしていくかを決めたいです。

## 2) 県主催の事業に参加した生徒による報告会等学校全体への波及の取組についての実践

### ア 報告会等のねらい

- ① 県事業により海外研修に参加した生徒については、その経験と成果を伝えることで、他の生徒が海外を身近に感じ、グローバルな視点で物事を捉え、高い目標設定のできるようになることを目的とした報告会を実施する。
- ② 県事業により国内研修に参加した生徒については、本校新聞部が作成する新聞でその成果を取り上げ、全校生徒に配布することで、成果の情報を共有する。これにより、体験の内容とリーダーとしての自覚に言及した記事内容を読むことで、多くの生徒（読者）の刺激につなげる。

### イ 報告会等の概要

- ① 平成29年9月1日（金）

#### 高校生海外大学等短期派遣事業（カナダ派遣）報告会

- ・ パワーポイントを使い、ロイヤルローズ大学での環境学習、ESL Lesson、アクティビティなどの学習の様子やホームスティの様子などを全校生徒の前で報告した。
- ・ 出発前の壮行会も全校集会時に実施している。

- ② 平成29年12月22日（金）

#### 県立高校グローバル・リーダー育成塾（アメリカ派遣）報告会

- ・ プロジェクターを使い、写真画像を示しながらハーバード大学やマサチューセッツ工科大学での交流を中心に様々な経験を英語で伝えた。
- ・ 出発前の壮行会も全校集会時に実施している。

#### ウ 生徒の様子（アンケート結果等）

- ① 自校の生徒が積極的に海外に出ていく状況や、海外での貴重な経験を語るのを見て、海外が身近なものに感じられ、将来的に自分も海外に行ってみたく思うようになる良い機会となったようである。
- ② 先端施設や被災地の訪問、テーマに沿ったディスカッションなど、普段の学校教育では体験できないものに触れ、その成果が活字となって目の前にあり、記者（新聞部員）の想いなども伝わってくることで、将来のリーダーとしての行動について考える良い機会となったようである。

### 3) 他県視察について

#### ア 報告会等の概要

参加者によるレポートを全教職員で共有した。広い構内に文系各学部の棟や立派なホール（川内菘ホール）がゆったりと配置された恵まれた環境であった。教育学部と経済学部の模擬講義を見学し、ホールで文学部の講演を視聴したが、最新の設備による興味深い内容の講義だった。「TGLプログラム」というグローバル人材育成プログラムについての情報を得た。これは、学部の枠を超えたものでありプレゼンテーションも理学部の生徒が行っていた。もともと国内では教育評価の高い大学であるが、さらに世界においても上位大学を目指して積極的な取組みを示している点が印象に残った。

#### イ 視察を踏まえた指導改善の取組または見通し

国立大学志望者の目をもっと東北大学へ向けさせることも必要だと考える。見学会への参加者もあまり多くないが、まず目を向けさせ見学会にも参加させることで意識させ、理系のみならず、文系の生徒も志望校と考えるようにさせていきたい。また、東北大学が積極的に行っている、学部や学科の壁を越えた横断的な融合研究を推進する組織改革は、本校が目指す効果あるクロスカリキュラムを実施していく上で示唆を与えられるものである。

### 4) 学校において事業5年間を見据えた組織的な進路指導體制を構築する取組について

進路指導體制では、その取り組みを、①意欲の喚起と進路選択のサポート、②大学入試制度改革への対応と研究、③学力向上のための方策に分類し、①は進路指導部本体で、②及び③は進路指導部員が中心となる委員会を組織し、それぞれが知の基盤の形成、支え導く事業に分類しながら、組織的な体制を整えていく。

### 5) その他

本校では、骨太リーダー事業以外の県事業、国事業、本校独自の行事のうち、骨太リーダー事業の趣旨に沿ったものはすべて事業の一部と位置づけ、総合的に生徒を育成していこうとしている。その成果は、報告会のほか、生徒新聞、学校ホームページ、などで情報を共有することによって、より効果のあるものにしようとしている。